



書庫からの便り ⑬

資料室

最近の地学関係の文献の増大ぶりは 周知のように ずさまじいものがあります。それに伴って 情報を適確に把握することの重要性がますます大きくなっていると同時に 個人的な努力だけでは関係情報の把握が困難の度を加え もはや個人の能力を越えつつあると言ってよいでしょう。

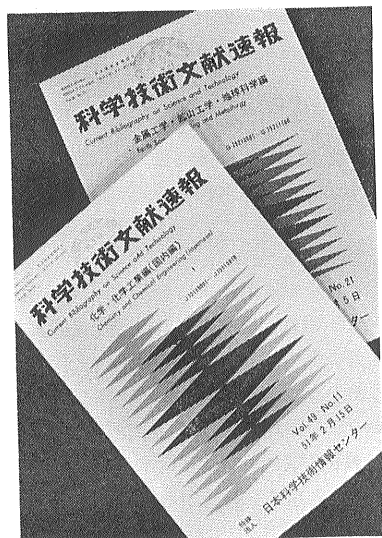
わが国はもちろんのこと 世界各国でも 地学関係情報の収集・処理・広報に苦心し その解決の方向として 地学情報収集・処理・広報総合機関の設立や既設地学関係研究機関での当該部門の新設・拡充が行なわれてきました。

たとえば 半官半民の経営として1957年8月に設立された「日本科学技術情報センター」(JICST) 国営機関(ソ連科学アカデミー所属)として1952年に設立され1955年に改組・拡充された「ソ連科学技術情報研究所」(VINITI) 世界最初の科学情報誌として1830年から

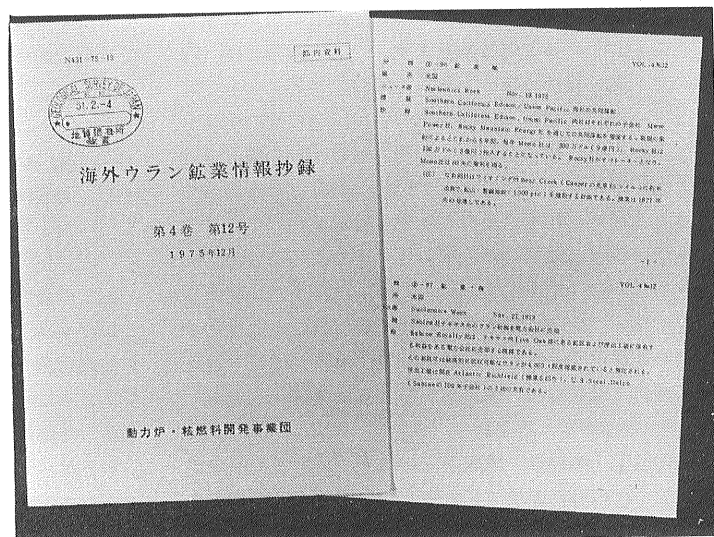
「Pharmaceutisches Zentralblatt」を出した歴史を基礎に変遷を重ねて1963年に確立した東ドイツの「Staatssekretariat für Forschung und Technik」1963年に準備を開始して1965年に活動を始めたキューバの「科学・技術ドキュメンテーション・情報研究所」(キューバ科学アカデミー所属)は前者の例であり フランスの「Centre National de la Recherche Scientifique」とBRGMの協力による場合は後者の例と言えるでしょう。

地質調査所資料課図書係が1965年に資料室に改組・拡充され 情報処理・広報を正規事業の一環にくり入れたことは後者の例に入るかも知れません。

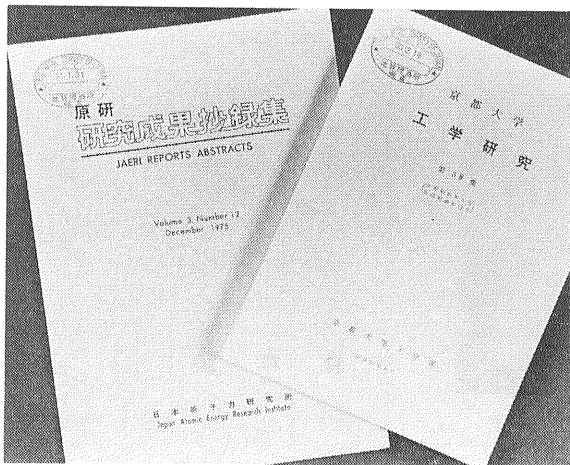
以上のような動きの中で 各機関・各部門が発行している情報掲載誌紙は世界全体で数えられるものではありません。しかし それ専門のものとなると限られてきます。たとえば各学会誌の抄録論文の実際的には全部



第1図



第2図



第3図

が専門抄録誌に採録されていて 全世界で一年間に発表される地質学関係論文の80%が一種類12冊(ほかに索引2冊)に抄録されているという便利なものも発行されています。それなのに 利用の状況は香しくありません。言葉の問題があるとはいえ 非常にうまく活用している人と全く利用する才覚を棄て去っている人と落差が目について仕方ありません。

そこで 有効利用を強く望む立場から 現在地質調査所資料室に入ってきている文献抄録専門誌についてお知らせする気になったわけです。

- 1) 科学技術文献速報：金属工学・鉱山工学・地球の科学編：日本科学技術情報センター発行：半月刊：30×21cm, 240p.前後(日本語) (第1図)

この抄録誌の特徴は何と言っても抄録と索引が日本語で行なわれていることにあります。さらに言えば 内外の主な関係雑誌はほぼもれなく採録の対象になっていること 世界の地質文献抄録誌の中では速報性のあるものに入ること 複写と翻訳の体制を遅いながら備えていること SDI サービスによって緊急な対応を可能にしていること IR ができることなども特徴となっています。「地球の科学」部門での分類項目(18巻17号の場合)は地球科学一般(地球化学一般 太陽系の科学) 地形学(地形学) 地球化学(地球化学一般 気圏の地球化学 水圏の地球化学 岩石・鉱物の地球化学) 地質学(各種探査法 地域地質 構造地質学 たい積学 層位学・地史学・古地理学 古生物学 鉱物学 岩石学 鉱床学) 地球物理学(測地学 地球内部物理学・地震学 地球電磁気学・超高層物理学 気象学・気候学 海洋学 水文学) となっていて 年間抄録論文数は14,000—16,000

程度であり 1論文の抄録字数は最大270字 標題だけの場合もあります。

かつて珪藻土(diatom)を双原子(di-atomと解した?)と記したという壮絶な誤訳があったそうですが 一般的にはチェックがゆきとどいているように思われます。

- 2) 科学技術文献速報：化学・化学工業編(国内編)：日本科学技術情報センター発行：半月刊：30×21cm, 220p.前後(日本語) (第1図)

前記の「金属工業・鉱山工業・地球の科学編」と同じ方式と特徴を備えた抄録誌ですが 取り扱い分野は1976年2月16日受入れの第49巻第11号の場合 化学一般 物理化学 分析化学 無機化学 有機化学 高分子化学 生化学 薬学 農芸化学 化学工学 化学工業一般 無機化学工業 窯業 有機化学・燃料工業 食品工業 発酵工業 油脂・洗剤・化粧品工業 ゴム・プラスチック工業 色材・接着剤工業 繊維工業 紙・パルプ・木材工業 写真化学工業 皮革工業 雑貨工業 となっています。

もともと この分野における草分けは 財団法人日本化学研究会(仙台)の手により 日本化学総覧として発行されたことにはじまります。この第1集(明治15→大正15) 第2集(昭和2→昭和38)として発行されていたものを 日本科学技術情報センターが吸収し 昭和33年から同センターで発行していた科学技術文献速報 化学・化学工業編に合併し 今日に至ったものであります。

ちなみに 日本化学総覧昭和25年第2集第24巻に記載されている記録によると 抄録誌616種 抄録員206名となっており 当時としては先見的であり画期的であったこの事業があったればこそ 今日日本における化学工業技術の発展につながったと言えることができると思います。

- 3) 海外ウラン 鉱業情報抄録：動力炉・核燃料開発事業団：月刊：25×18.5cm, 10p.前後(日本語) (第2図)

この資料は発行者自身の説明によると 「……海外におけるウランの探鉱・開発・生産状況 需給の見通しを部内に紹介し 参考にするため作成したものです。ファイル孔を打った上 さらに片面刷のカード型式を採用した体裁のユニークな抄録誌で 抄録字数は最大400字となっています。採用された情報はアメリカに関するものが50%と最も多く 社会主義国に関するものは3%にも達していません。

4) 原 研 研 究 成 果 抄 録 集 : 日 本 原 子 力 研 究 所 発 行 : 月 刊 : 30×21cm, 10p. 前 後 (日 本 文) (第 3 図)

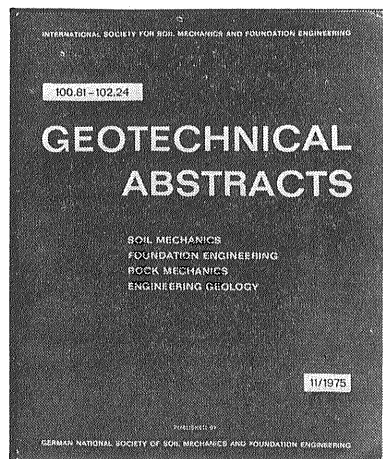
前 述 の 3 種 の 抄 録 誌 は 国 外 不 論 日 本 内 外 の 文 献 を 取 扱 っ て 居 っ て 居 っ ます . し かし こ の 抄 録 誌 は 次 の 抄 録 誌 と 同 様 に 1 つ の 機 関 に 属 す る 研 究 者 の 発 表 論 文 に 限 っ て 抄 録 し て 居 っ て 居 っ た り と いう の が 特 徴 で す . 抄 録 字 数 は 最 大 390 字 1 つ の 集 に 30—40 編 採 用 さ れ 作 成 担 当 は 技 術 情 報 部 情 報 資 料 課 で こ の 抄 録 に 掲 載 さ れ た 論 文 の 原 文 を 入 手 し た い 場 合 に は 財 団 法 人 原 子 力 弘 済 会 の 情 報 サ ー ビ ス 事 業 部 (原 研 内) に 申 込 め ば コ ピ ー し て 送 っ て 来 可 べ し (有 料) .

5) 京 都 大 学 工 学 研 究 : 京 都 大 学 工 学 部 発 行 : 年 刊 : 26 × 18cm, 380p. 前 後 (日 文 と 英 文) (第 3 図)

こ れ は 京 都 大 学 工 学 部 の 23 教 室 ・ 3 研 究 施 設 に 属 す る 人 々 が 1 暦 年 間 に 発 表 し た 論 文 の 抄 録 を 主 体 に 現 在 の 研 究 テ ー マ 同 じ 1 暦 年 間 に 出 版 し た 専 門 書 の 標 題 と 著 者 ・ 発 行 所 の リ ス ト を 加 え た 出 版 物 で す . 1 抄 録 当 り 字 数 最 大 480 は 手 頃 で し ょ う . 講 演 の 場 合 は 要 旨 集 に 記 録 さ れ た も の が 採 用 さ れ 要 旨 集 に 載 っ て い な い と カ ッ ト さ れ て 居 っ て 居 っ ます .

な お 民 間 の 研 究 所 た と え ば 旭 ガ ラ ス な ど で も 同 様 な 方 式 の 抄 録 誌 を 年 刊 と し て 発 行 し て 居 っ ます .

6) **Geotechnical Abstracts** : soil mechanics, foundation engineering, rock mechanics, engineering geology : German national society of soil mechanics and foundation engineering : 月 刊 : 30.5×25.5cm, 20p. 前 後 (英 文) (第 4 図)

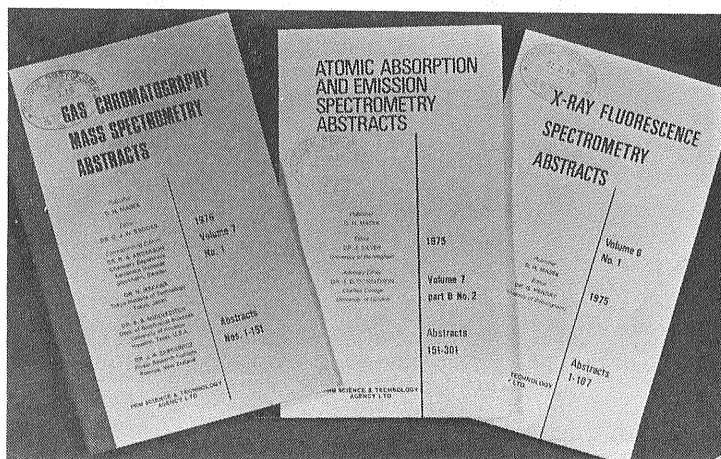


第 4 図

こ れ は 標 記 4 分 野 の 世 界 の 論 文 を General engineering geology Site investigations Soil properties Laboratory and field determination Analysis of soil-engineering problems Rock properties ; Laboratory and field determinations Analysis of rock-engineering problems Design, construction and behaviour of engineering works Construction methods and equipment Snow and ice mechanics and engineering の 10 種 に 分 け 両 面 刷 の カ ー ド 型 式 で 抄 録 し た 雑 誌 で す . し た が っ て こ れ から カ ー ド を 作 る に は 一 度 コ ピ ー し て か ら で な い と 困 る わ け で す . で も 資 料 室 所 蔵 の も の は い ず れ に し て も カ ー ド に す る に は コ ピ ー し な く て は な り ま せ ン が .

7) **X-ray Fluorescence Spectrometry Abstracts** : PRM science & technology agency Ltd. 発 行 : 季 刊 : 24×15.5cm, 35p. 前 後 (英 文) (第 5 図)

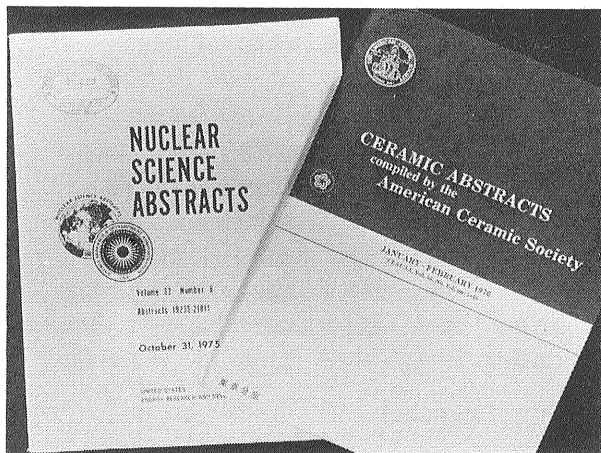
こ れ は X 線 螢 光 分 析 の 理 論 ・ 装 置 か ら 応 用 に いた る 世 界 の 諸 論 文 を Theory Instrumentation Experimental technique Elemental analysis Chemistry Metallurgy Ceramics cement and glass technology Geological sciences Biological sciences Environmental sciences Miscellaneous に 分 け 抄 録 し た 雑 誌 で す . 採 録 論 文 数 は 1 冊 110 編 程 度 で 抄 録 文 の 語 数 は 最 大 180 語 前 後 と な っ て 居 っ ます . あ ら ゆ る 国 の 重 要 論 文 を 選 択 す る こ と に 努 力 し て 居 っ て 居 っ ます が 原 論 文 が 発 表 さ れ て か ら こ の 抄 録 文 が 入 手 で き る ま で 早 い も の で も 10 ヶ 月 遅 い 場 合 に は 2 年 も 経 過 し て 居 っ て 居 っ た り と 思 っ ち ぬ け 難 い 点 は 有 益 で し ょ う .



第 5 図

8) **Gas Chromatography-Mass Spectrometry Abstracts** : PRM science & technology agency Ltd. 発行 : 季刊 : 24×15.5cm, 300p. 前後 (英文) (第5図)

1976年1月6日受入の Vol. 6, No. 4 (1975) によると 抄録論文数は203編 1抄録文の語数は240語前後で イギリス アメリカ カナダ ソ連 ポーランドなど16ヶ国 (日本6編) の論文が採用されています。そして 論文内容にもとづいて Instrumentation and technique Environmental science Agricultural chemistry Food chemistry Biochemistry Clinical chemistry Organic chemistry Geochemistry Review Conference reports に分類され 項目索引と著者索引が付され その点は7) よりも親切です。日本の6編はいずれも英文で書かれた原文から抄録されており 次記の場合とは異なっています。採録者の問題なのでしょうか。



第6図

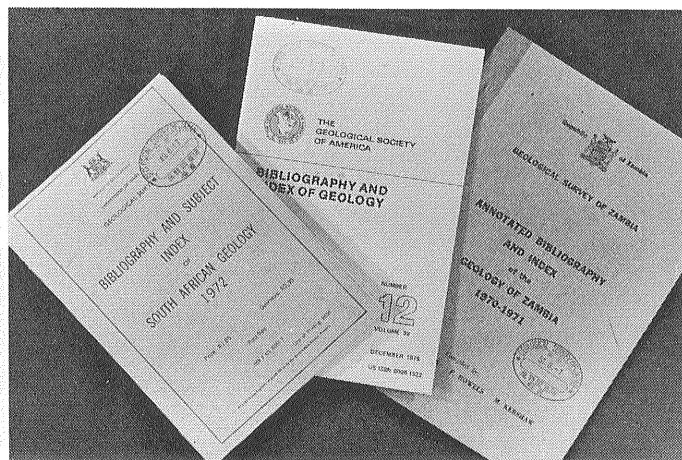
9) **Atomic Absorption and Emission Spectrometry Abstracts** : PRM science & technology agency Ltd. 発行 : part B, 隔月刊 : 24×15.5cm, 100p. 前後 (英文) (第5図)

これは1973年の Vol. 5, No. 6 まで「Atomic absorption and flame emission spectroscopy abstracts」として 1974年 Vol. 6, No. 1 から「Atomic absorption and emission spectrometry abstracts」として刊行されていた抄録誌で 1975年の Vol. 7 の No. 1 から part A と part B に分冊改編されて地質科学の分類が新設されたもの (part B) です。1975年の Vol. 7 の No. 2 では Theory Instrumentation Experimental technique Elemental analysis Physico-chemical studies Clinical

chemistry, pharmacology & toxicology Agricultural & food science Metallurgy Forensic science Industrial chemistry Biological science Geological sciences (geochemistry, mineralogy & petrology clay-mineralogy & soil science) Environmental sciences Reviews Archeology に分類・紹介してあります。各冊とも末章に元素索引があつて 使用に便です。抄録は最大180ワード前後にまとめられ 通常150程度の論文が取り扱われ このNo. 2での紹介論文には日本語からのものが7編掲載されています。

10) **Nuclear Science Abstracts** : United States, Energy Research and Development Administration 発行 : 半月刊 (年2巻 各12冊) : 27.5×21.5cm, 各冊 400p. 前後 (英文) (第6図)

1976年2月23日受入れの Vol. 32 の No. 8によると Chemistry Controlled thermonuclear research Engineering Environmental and earth sciences Instrumentation Isotope and radiation sources technology Life sciences Materials Nuclear materials and waste management Particle accelerators physics Reactor technology and regulation General and miscellaneous に論文を大別し ウラン鉱物・鉱石・鉱床に関しては Environmental and earth sciences の中で取り扱われ 抄録語数は330語を最大としています。抄録に採用されている文献は国も限定せず



第7図

日本語の文献からも抄録されています。たとえば抄録番号19703は「Uranium content in natural water. Doi, K.; Aoyama, Y. (Power Reactor and Nuclear Fuel Development Corp., Tokyo (Japan)). Kozan Chishitsu; No. 5, 35—45 (1973). (in Japanese) でこの抄録文の場合は原著者のアブストラクトそのものの転載ですがすべて転載の抄録文ばかりというわけではありません。

11) **Ceramic Abstracts**: American Ceramic Society 発行: 月刊(ただし合併号が多い): 28×21cm, 各冊 50p. 前後(英文)(第6図)

世界のセラミックス領域の主要論文(学術雑誌だけでなく単行本も含めて)を抄録した抄録雑誌。抄録者はI. A. Aksayら54人でそのメンバーの中には岸井徹曾宮茂行(音訳)という2人の日本人が含まれています。抄録分類は1976年の第55巻第1—2号でみると研磨材など16項目と単行本の計17項目に区分され原著論文に付された要約にこだわらず抄録し直すことを原則にしてまとめられています。抄録文の語数は440語から0まですなわち文献題目 著者 雑誌名・巻号・頁だけのものまでさまざまです。原著の使用語が紹介してないのは一つの欠点といえましょう。各論文の標題がすべて英訳してあるので原著がすべて英文と誤解されるのではないかと思います。なお各項目ごとに当該分野での特許事項がまとめてあるのは親切な取扱いといえましょう。

12) **Bibliography and Index of Geology**: The Geological Society of America 発行: 月刊: 23×15cm, 各冊 250p. 前後(英文)(第7図)

この抄録誌は閲覧室の横に並んでいて馴じみ深いかと思えます。全世界の地球科学関係の文献を年間30,000編ほど抄録しているという抄録文献の多さや各冊にそれぞれ索引が付されているという使いやすさの点で世界の抄録雑誌の中ではすぐれたものの一つです。しか

し索引を除いて年間1,650p.程度に30,000編の論文抄録さらに版がA5に近いので抄録語数がきわめて少なくて2行前後にすぎず原論文名の英翻字と英訳雑誌名と巻号・頁 原著使用語 図・表の数だけ記されている場合が多いのは物足りなさを感じます。

13) **Bibliography and Subject Index of South African Geology**: Geological Survey of South Africa: 年刊: 21×15cm, 160p.前後(英文)(第7図)

これは南ア共和国の地質学者が発表した論文を1年間分まとめて抄録したもので取扱対象地域が南アフリカに限っているわけではありません。版が小さいとはいえ抄録語数は0.5—1.5p.を占めるほど多くしたがって抄録論文数は260編前後にすぎません。面白いのは抄録の集め方ですべて原著者が自分で抄録して呈出したものばかりです。原著者が抄録を呈出しない場合は論文の標題などが記されているだけでその数も260編の中で決して少なくありません。原著の発表年からすると2年前後のズレがあるようです。索引は対象索引だけですから少し使い難いように思われます。

14) **Annotated Bibliography and Index of the Geology of Zambia**: Geological Survey of Zambia 発行: 隔年刊: 40p.前後 25×18p.(英文)(第7図)

この抄録誌はザンビアを中心にその隣接地方を含めてその地質を対象にした地球科学的な研究論文を集め抄録したもので抄録論文数は90—100抄録語数は最大600語とかなり詳しく採録されています。しかし利用雑誌はEconomic Geologyなどアメリカ・フランス・イギリス・北欧とザンビアの計22種にすぎずとてもザンビアとその近隣の地質・鉱床に関する文献を網羅しているとはいえません。それでもこのような地域別抄録は役に立つものと思われまふ。索引が項目別だけでなく地区別にもまとめられているのは前述の南アの場合よりも便利です。(つづく)

～地質調査所の出版物～

・地質調査所月報 第27巻 第4号
報 文

寺島 滋: けい光X線分析法による岩石中の塩素およびイオウの定量
大森江い・大森貞子: 岩石および鉱物中の主成分のけい光X線分析法—第1法—ガラス円板作成について
丹治耕吉・金谷 弘: 半導体検出器を用いた蛍光X線分析法の検討(その1) 分解能による検出エネルギースペクトルの変化

太田良平・神谷雅晴ほか1名: 阿蘇火山岩石の¹⁴C年代—日本の地熱活動に関連する第四紀層の¹⁴C年代 II—

概 報

磯部一洋: 福井県小浜湾の底質分布と堆積環境について

資 料

モンゴルのカンブリア系糜攢土(岸本文男訳)
新着資料の紹介(資料室)